

Title	萩原弘子女史のご退職にあたって
Author(s)	大形, 徹
Editor(s)	
Citation	人文学論集. 2017, 35 (別冊), p. -
Issue Date	2017-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10466/15327
Rights	

萩原弘子女史のご退職にあたって

大形 徹

直哉女史、大学有道如矢、大学無道如矢。

(直なるかな女史、大学に道有るも矢の如く、大学に道無きも矢の如し)

これは『論語』の次の文章をふまえている。

子曰、直哉史魚、邦有道如矢、邦無道如矢。(『論語』衛靈公)

(子曰く、直なるかな史魚、邦に道有るも矢の如く、邦に道無きも矢の如し)

(孔先生がおっしゃった。「真っ直ぐだな史魚は。国に道があるときにも、矢のように真っ直ぐで、国に道がないときにも、矢のように真っ直ぐだ」)

孔子の語である。史魚は衛の靈公の忠臣で、国に道があってもなくても、君主の靈公を諫めること矢のように真っ直ぐな人物であった。

女史を凝って観察していると、「直なるかな」と詠嘆したくなることが屢々あった。

『論語』では、つづけて蘧伯玉のことが語られる。

「国に道有れば則ち仕え」まではほぼ同じ。しかし「邦に道無ければ則ち卷きて之れを懐にすべし」とつづく。これは「光を韜み智を匿し懐に蔵めて、以て世の害を避くるなり」と解釈されている。「韜晦」の「韜」は本来、「ゆみぶくろ」で、弓を弓袋に入れることなのだろう。蘧伯玉はおのれを韜晦する人物であったが、孔子はその人を「君子」とたたえている。

女史は「君子」ではなかった。「弘子」である。

「弘」は白川静の『字通』によれば、「弓幹を巻き強める」意味である。そこから「ひきしぼる、ひろい、ひろめる」の意味がでてくる。

名は体をあらわす。

大学のはるかかなたまで見据えて力強く引き絞られた弓から放たれた矢は、この三月末日に小さな的に命中するのではなく、これからもひろい宇宙の果てまで真っ直ぐに飛び続けていくように思われるのである。

追記

ご本人による校閲で「女史」の語に「アウト」のサインが出た。おっしゃるには、「いただいた「辞」の核心に触れるのかもしれませんが、そもそも論からすると、「男史」と言わないのに「女史」と言うのは、女性は劣位にあるという大前提があり、でもその人物は女性としての例外なので、女史と呼んで並みの女より格上げするためだと思えます。そして、一般的には、女性を格上げする際にはちょいとした嫌味が籠もります」と。

そうくるだろうと思っていました。想定内です。「史」は本来、祭祀に関係のある文字ですが、後漢、許慎の『説文解字』は「史は事を記す者なり。又(手の意味)の、中を持するに従う。中は正なり」と述べています。許慎は、歴史を記述する史官が中正を守ることが「史」だと考えたのです。「女史」は『周礼』にみえます。「女史は王后の礼職を掌り…」と重要な職です。注には、「書に曉らかなる者」とみえ、清の孫詒讓は、さらに解釈して「文字に通曉する者を謂う」と述べます。史です。日本では博士命婦を女史と呼びました。

男性の敬称の「先生」は字義からいえば年長者の意味です。「後生畏るべし」。馬齢を重ねただけのような「先生」は、畏るべき後生にいとまたやすく追い越されてしまうのです。だからこそ、「先生と言われるほどの馬鹿でなし」などといわれてしまいます。

そういった「先生」に比べれば、女性の敬称の「女史」は、はるかにすばらしい言葉ではないでしょうか。むしろ男性の敬称に「史」のつくものがないことを嘆くべきでしょう。

たしかに明治・大正・昭和の余韻を残した言葉で平成には似つかわしくないかもしれませんが。けれども、そもそも敬称は他人がその人を呼ぶもので自分が決めるものではないでしょう。他人にそう呼ばれたくないから、変えろ、というのも、何だかなあ。萩原氏らしい、といえ、らしいんですけど。